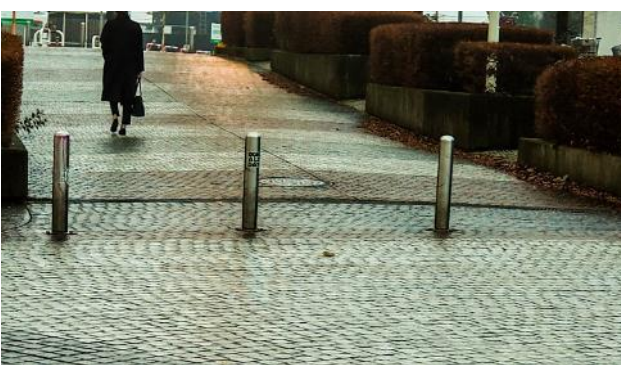




鳥見の記 散策の発見

第13回 赴くままに(その2)

2020.2



表紙の写真は、午前6:20~7:00頃の戸頭駅へのロータリーと踏切付近の情景です。まだ明けきらない冬の朝、前夜来の雨で街頭の明かりに鈍く輝く濡れた石畳のロータリー、水溜まりの道路に映る冬の温もりを感じさせる街頭の灯の色、朝日に向かう通勤電車から目が眩むほどの陽、太陽がいっぱい映しだされる大きな窓ガラス、朝焼けの雑木林等を切り取りました。

地球温暖化が自然へ及ぼす悪影響が懸念される中、大規模な風水災害や山火事などが起こり始めています。その脅威を我が身のそれと感ずることなく過ごしてしまうのが現実の日常です。しかし、あまり雪が降らない雪国、そして乾燥注意報がほとんど出なかった今冬、四季それぞれの自然を愛でてアウトドアを楽しむ者たちにとっては、何ともやりきれない自然環境になっています。

さて、気を取り直し、探鳥のポイントのひとつとして「冬の雨上がりの午前中の時間帯は、小鳥が餌^{えさ}を求めて地面に降りてくるため、普段より見つけやすい」と人づてに言われたことを思い出し、朝食もそこそこにバーダーになって出かけることにしました。例年の冬ならば寒さが肌身にしみる1月下旬にもかかわらず、前夜来の雨で春の気配さえ感じる暖かい早朝、まずは「さくらの杜公園と第2調整池」付近を観察。さらに日を改め、「鳥のみちから守谷城址公園」そして「守谷沼から守谷森林公園」に行きました。さらには寒さに堪えて千葉の三番瀬やつくばの公園、そしてやっぱり見たかったオオハクチョウを求めてちょっと遠出もしました。

まずは、さくらの杜公園と第2調整池付近を観察



さくらの杜公園の林縁から餌^{えさ}を求めて出てくる小鳥たちを静かに待ち続け、第2調整池ではカルガモの数を数えながら冬の日差しを浴びて遊ぶカルガモの仕草を見守りました。



さくらの杜公園の水たまり



白毛の猫



猫の後にはアオジが



横目で餌を探すアカハラ



公園の中央で胸をはるツグミ



餌から餌へ飛ぶメジロ



濡れた翼を干すカワウ



一本足で日向ぼっこのアオサギ

第1調整池は、一昨年来カルガモの数が大幅に増え、今年は32羽まで確認できる日があります。カルガモの沐浴を観察するには、日差しが強い時間帯がいいかもしれません。



両足を上げて背面沐浴するカルガモ



小枝に止まり水面を覗くカワセミ



3度目の飛び込みで餌を捕ったカワセミ

オスのカワセミが現れ、時にはホバリングも見られ、シラサギとアオサギが餌を捕る場所を巡り争う場面にも会えることもあります。

守谷鳥のみちから守谷城址公園で出会った鳥たち



「鳥のみち」の中継地点で西と東へ向かう木の道



オオタカ



ノスリ



ハイタカ

鳥のみちは空高く飛翔している猛禽類にも出会える格好の地域です。サシバやチョウゲンボウも見られるそうです。出会いは午前中がお奨め。



見つめあうスズメ



小枝に隠れるカシラダカ

守谷鳥のみちは、いつ行っても肉眼でも種々の鳥を見ることができます。双眼鏡とポケットサイズの鳥図鑑を持って出かけるのがベストでしょう。この時は見られませんでした。可愛いベニマシコもいます。



最大限に首をまげ木をつつくコゲラ

守谷城址公園では、下記4種(シジュウカラ・シロハラコゲラ・カケス)は声のみで、この日は残念ながらルビタキには出会えませんでした。



木の実をついばむシメ



枯葉をひっくり返し餌を探すヤマガラ



ジョウビタキ(メス)



ジョウビタキ(オス)

守谷沼から守谷森林公園へ



人の気配で守谷沼に我先に隠れようとするオオバンの群れ 8~10数羽確認



ムクドリ



守谷沼の上空を
旋回するミサゴ



コガモ



ホシハジロ

この他、守谷沼にはカルガモ・ハシビロガモ・マガモ・オカヨシガモがいるようです。



藪から出てきたツグミ



大杉の幹もとにしがみつくヤマガラ

守谷森林公園では、この他にビンズイ・カワラヒワ・シロハラ・コゲラ・ジョウビタキも見られます。

冬の時期は、「水辺」と「雑木林や森林の公園」といった生息地の違いで見られる鳥の種類も異なるため、数は決められませんが、20 種以上見られたらその日は“バードウォッチ日和”です。もちろん、姿は見えなかったけれども鳴き声を聞き分けられた鳥もその数に入ります。

これらの聖地でも今回掲載できなかった（鳴き声のみ・撮影ブレ等で）けれどもよく見られる鳥は・・・エナガ・シジュウカラ・シロハラ・モズ・ビンズイ・カワラヒワ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・キジバト・コジュケイ・カケス・キジ・ベニマシコ・マガモ・オカヨシガモ・カイツブリ・ダイサギ等々。カラスも忘れずにね！

三番瀬にシギチドリを見に行った

曇りで空っ風が吹く冬の浅瀬。初めて見る鳥がいっぱいでしたが、それにしても「さみいー！」



浅瀬で好物の貝類をついばむ赤いくちばしと脚のミヤコドリと3羽のミユビシギ(手前)



水しぶきを上げテイクオフ



海面は寒い？寄り添って一休みのユリカモメ

冬の王様、オオハクチョウを求めて

冬鳥の被写体の王様は、やっぱりオオハクチョウ！ハクチョウの観察地は、みずき野から近い菅生沼（常総市と坂東市の境）の他には印旛（印西市）の本埜村、もとのむらちょっと遠く的那珂市の古徳沼ことくぬまや霞ヶ浦湖畔の北浦等があります。今回は本埜村。晴天の日を選び、朝と夕暮れ、もちろん昼間でも、かつ風向きと太陽の位置をみて観察場所を自分なりに好きに選べるからです。



万博記念公園、坂田ヶ池にも行きました



イチョウ並木の紅葉が今ひとつでしたが、つくば市の万博記念公園に12月初旬行くと、ヒドリガモが紅葉の映る水面をかき乱していました。(例年、洞峰公園にも紅葉を見に行きますが、去年あまり綺麗ではなかったのは、いわゆる温暖化による異常気象の影響かもしれません。さくらの杜公園の紅葉も同じく燃えなかったですね。)

成田市の坂田ヶ池にはパンダガモといわれるミコアイサに会えるのを期待して行きましたが、その時にはまだ渡ってきていないようで、マガモの水浴びで我慢。



光を受けてキラキラ輝くマガモの水浴び



枝の上でゆっくり日向ぼっこするコガモのメス



ハシビロガモのメスを巡るオスたちの争い。
反時計回りにグルグル廻り中央のメスの尾を追う。



毎年違った風邪の菌やウイルスが抵抗力の衰えた老人に襲いかかってきます。一人ひとりが自己防衛本能を最大限に発揮して生活するしかないようです。立春が過ぎたとはいえ、霜が降りて菜園が真っ白になり、頬に寒さを感じる日もまだまだある冬本番は続きます。寒暖差に堪える体の維持は、朝のラジオ体操と食後の昼寝、そして夜の入浴と早めの就寝ではないかと昨年未より習慣づけています。もちろんインフルエンザ予防接種も忘れません。

暖かい日を選んで、赴くままに散策して陽だまりのベンチで過ごしてみる、時にはコンビニのおにぎりを買って遠出して過ごす。そんな時、ポケット図鑑と双眼鏡をぜひポシェットに入れて出かけ、冬の鳥見を楽しんでみてください。

私もこの冬、以前小貝川の稲豊橋から岡堰方面への流域で見たカワアイサ、桜の蕾がふくらむ頃に出会ったウソ、数十羽の群れのアトリ、そして四季の里公園のハンノキの上で見かけたマヒワにぜひまた遭遇したいと思っています。

次回は、芽吹く息吹を感じる頃、赴くままの情景と鳥さんを綴れたらと思います。

3丁目のブラリーマン・サトー